



福中だより

☆☆☆教育目標☆☆☆ 希望 創造 潤い

昭島市立福島中学校
平成29年11月10日 NO.9
042-541-2940
創立38年目(昭和55年開校)

『学習習慣と生活習慣を考える』

校長 長野 基

立冬も過ぎ、風の冷たさを感じるこの数日。校舎の窓からは雪化粧をした富士山、3年生は三者面談や受験用の面接練習で、いよいよ冬の到来を感じています。

さて、今年度も4月に全国学力調査(3年生)、7月に東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査(2年生)が実施され、その結果を分析し、今後の授業や家庭学習の取組に生かすべく検討をしているところです。また、6月には体力・運動能力調査を行いました。それぞれの結果から福島中学校の生徒の良さとともに課題を明らかにして、今後の授業や生活の改善に役立てたいと思います。以下は、今年度の調査結果です。ご家庭でも参考にいただき、お子様の健全な成長にご協力ください。

≪ 平成29年度 体力・運動能力調査結果 ≫

本校の平均値と全国平均値、東京都平均値の比較をお知らせします。

◎印は本校の平均値が、全国平均・東京都平均値を上回っていることを示しています。

○印は本校の平均値が、全国または東京都のいずれかの平均値を上回っていることを示します。

全66の調査項目中、29項目で全国・東京都両方の平均値を上回りました。

全66の調査項目中、8項目で全国または東京都の平均値を上回りました。

全66項目中、29項目で全国・東京都の平均値に達しませんでした。

	1年生男子	2年生男子	3年生男子	1年生女子	2年生女子	3年生女子
身長		◎		◎		◎
体重		◎		◎		◎
握力	◎	◎	◎	◎	◎	◎
上体起こし	◎			◎		
長座体前屈	◎	◎		◎	◎	○
反復横とび	◎	◎		○		
持久走	○			◎		
50m走		○	○			
立ち幅とび	◎	◎	◎	◎	◎	
ハンドボール投げ				◎		○
合計点	◎	○		◎	○	

本校では、平成26年度より「全身持久力」の向上を学校課題とし、保健体育科体育分野での授業や部活動等、学校の教育活動全般で取り組んできました。その成果が少しずつ表れていると考えます。

今後、「昭島市総合的な体力向上を図る補強運動」を活用して「上体起こし」「50m走」の課題を克服していきます。なお、持久走については、昨年度は3年間かけて強化をしてきた結果、全学年で男女とも東京都の平均を上回っていました。しかし、今年度は思うような結果が表れなかったのは残念です。改めて持久走も克服課題にします。また、1年生男女及び2年生男子の優れた体力・運動能力は絶賛に値します。

《平成29年度 全国及び東京都学力調査の結果》

(1)【全国学力・学習状況調査の結果】…平成29年4月 第三学年実施

		国語 A (知識)	国語 B (活用)	数学 A (知識)	数学 B (活用)
平均 正答率	福島中 3 年	75.0%	71.1%	64.7%	45.3%
	全 国	77.4%	72.2%	64.6%	48.1%
	東京都	79.0%	74.0%	66.0%	50.0%
	昭島市	75.05%	69.0%	61.0%	45.0%

<質問紙からの課題>

- 家庭での学習時間（平日）
1 h 未満⇒32.6%
(全国平均 ⇒30.4%)
- スマホ等使用時間（平日）
2 h 以上⇒38.1%
(全国平均⇒32.2%)
4 h 以上⇒18.5%
(全国平均⇒9.5%)

(2)【生徒の学力を図るための調査】…平成29年7月 第二学年実施

注、東京都平均は速報値		国語	社会	数学	理科	英語
平均 正答率	福島中 2 年	69.3%	53.8%	49.3%	58.3%	61.2%
	東京都	73.0%	56.2%	53.3%	56.6%	65.0%
	昭島市	69.0%	43.5%	49.0%	53.0%	58.9%

<質問紙からの課題>

- 学校以外の学習時間
1 h 未満⇒80.3%

【各教科等の成果と課題】

<国語>

「書く力」「読む力」における正答率が、都平均に比べて劣っていた。

読書指導や語彙力の伸長を目指す指導の結果、「読み取る力」は都の平均正答率に近い結果を残せた。今後も読解力の向上に重点をおいた指導を行っていく。

<社会>

授業中に地図やグラフを多く用いるなどの「技能」の育成に努めたが、まだその成果は現れていない。日頃から複数の資料から必要なデータを取り出し、根拠に基づいて説明するという授業を積極的に展開する。また社会科に関する用語や地名等の基礎・基本事項の理解・定着のために、反復学習を継続して行っていく。

<数学>

数量、「図形に関する見方や考え方」、資料の読み取り「既習事項の定着」に課題がある。これらへの対策として、普段の授業において、深い思考を行う時間設定をする。繰り返し学習を実践する。発言機会を増やし、生徒の主体性や積極性を伸張することなどが考えられる。

<理科>

「技能」と「知識・理解」の観点が高い正答率であった。また、総合の正答率でも都の平均を超えることができた。取り出す力の問題では今年もやや課題を残している。対策として、ワークシートを活用して、観察—考察—発表という授業を推進する。PCなどのICT教具(教材)を活用して、視覚に訴える授業を推進するなどが考えられる。

<英語>

都の学力調査では「思考・判断・表現(外国語表現)」における課題が明らかになった。「書く力」と「読む力」に課題があるところは、3 学年に共通している。対策として、毎時間授業の冒頭でリスニングを行ったり、ノートへの 1 行英作文、毎時間の英単語テスト、スペリングコンテスト等を実施している。

<質問紙>

- ▲ 約 6 割の生徒は「英語で話しかけること」に消極的である。
- ▲ 家庭学習が 1 時間未満の生徒が 8 割もいる。
- ▲ 約 3 割の生徒が「自分は根気強くない」と感じている。
- 「授業で発表する機会があるか」という問いに対して、約 9 割の生徒が肯定的な回答をしている。
- 「授業の中で目標が明示されているか」という問いに対して、9 割以上の生徒が肯定的な回答をしている。
- 「授業の中で振り返る活動が行われているか」という問いに対して、8 割以上の生徒が肯定的な回答をしている。
- ◆ 「自分の将来に希望をもっている」生徒が 83.3% である。これをどう捉えるか。